

統一的な基準による財務書類
(新地方公会計制度)
一般会計等財務書類
令和4年度決算

令和6年3月
鹿追町

IV. 令和4年度財務書類
 (1) 一般会計等 財務4表

【様式第1号】

貸借対照表
 (令和5年3月31日現在)

(単位：千円)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	25,566,830	固定負債	6,482,561
有形固定資産	21,886,840	地方債	5,567,932
事業用資産	12,560,312	長期未払金	-
土地	1,618,629	退職手当引当金	914,629
立木竹	1,364,136	損失補償等引当金	-
建物	20,122,438	その他	-
建物減価償却累計額	△ 13,206,923	流動負債	968,185
工作物	5,416,281	1年内償還予定地方債	868,550
工作物減価償却累計額	△ 2,766,613	未払金	-
船舶	756	未払費用	-
船舶減価償却累計額	△ 756	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	76,460
航空機	-	預り金	19,340
航空機減価償却累計額	-	その他	3,834
その他	-		
その他減価償却累計額	-	負債合計	7,450,746
建設仮勘定	12,364	【純資産の部】	
インフラ資産	9,016,341	固定資産等形成分	26,132,030
土地	257,880	余剰分(不足分)	△ 6,823,889
建物	227,083		
建物減価償却累計額	△ 167,679		
工作物	82,145,460		
工作物減価償却累計額	△ 73,468,417		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	22,014		
物品	3,185,873		
物品減価償却累計額	△ 2,875,686		
無形固定資産	238		
ソフトウェア	238		
その他	0		
投資その他の資産	3,679,752		
投資及び出資金	47,904		
有価証券	-		
出資金	47,904		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	7,667		
長期貸付金	192,496		
基金	3,129,291		
減債基金	1,133,765		
その他	1,995,526		
その他	302,476		
徴収不能引当金	△ 82		
流動資産	1,192,057		
現金預金	625,804		
未収金	1,053		
短期貸付金	-		
基金	565,200		
財政調整基金	565,200		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
資産合計	26,758,887	純資産合計	19,308,141
		負債及び純資産合計	26,758,887

貸借対照表の説明

① 資産の部

学校、道路、公園など将来の世代に引き継ぐ社会資本や、基金、投資など将来現金化することが可能な財産など、これまでの行政活動で形成された資産の年度末現在の価値を示しています。これまでに鹿追町では、約270億円の資産を形成してきました。

- ・事業用資産 … 学校、公営住宅、公民館、庁舎、体育館など
- ・インフラ資産 … 道路、橋りょう等の社会資本
- ・物品 … 現金や基金等以外の動産
- ・投資その他の資産 … 出資金、長期延滞債権、基金など

有形固定資産のうち建物工作物など、耐用年数のある資産の合計取得額は約1,079億円、その減価償却累計額は約896億円で、約83.0%が経年で消費された計算になります。これらの資産を今後限られた財源で更新していくため、施設の統廃合等や長寿命化を進めていく必要があります。

② 負債の部

資産を形成するための地方債や退職手当引当金など、将来の世代が負担するものです。総額は約75億円あり、大部分は今後償還しなければならない地方債で、その年度末残高は約65億円です。

- ・地方債 … 地方債残高のうち、令和6年度以降に償還が予定されている元金。
- ・1年内償還予定地方債 … 地方債残高のうち、令和5年度に償還が予定されている元金。
- ・退職手当引当金 … 本年度末に全職員が退職した場合に積立不足している退職手当金。

③ 純資産の部

資産合計から負債合計を差し引いた額で、これまでの世代が負担し、将来の返済や支出の必要のない資産で、総額は約193億円あります。

- ・固定資産形成分 … 資産形成のために充当した資源の蓄積をいい、原則として金銭以外の形態（固定資産等）で保有する。
- ・余剰分（不足分） … 費消可能な資源の蓄積をいい、原則として金銭の形態で保有する。流動資産（短期貸付金及び基金等を除く）から負債（将来現金等支出を見込む）を控除した額。マイナスとなることが多く、その場合、基準日時点における将来の金銭必要額を示している。

貸借対照表の経年比較

【資産】

(単位：千円)

令和4年度	令和3年度	令和2年度
26,758,887	27,293,574	27,707,442

【負債】

(単位：千円)

令和4年度	令和3年度	令和2年度
7,450,746	8,076,058	8,688,115

【純資産】

(単位：千円)

令和4年度	令和3年度	令和2年度
19,308,141	19,217,517	18,927,245

【様式第2号】

行政コスト計算書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

(単位：千円)

科目	金額
経常費用	6,665,883
業務費用	4,693,527
人件費	1,570,938
職員給与費	1,314,452
賞与等引当金繰入額	76,460
退職手当引当金繰入額	△ 27,396
その他	207,421
物件費等	3,097,087
物件費	2,059,629
維持補修費	16,847
減価償却費	1,020,610
その他	-
その他の業務費用	25,503
支払利息	13,286
徴収不能引当金繰入額	0
その他	12,218
移転費用	1,972,356
補助金等	1,327,648
社会保障給付	261,841
他会計への繰出金	380,442
その他	2,425
経常収益	1,150,123
使用料及び手数料	655,370
その他	494,753
純経常行政コスト	5,515,760
臨時損失	0
災害復旧事業費	-
資産除売却損	0
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	122
資産売却益	122
その他	-
純行政コスト	5,515,639

行政コスト計算書の説明

① 経常費用

行政サービスに係る経常的な費用を表示したもので、人件費、物件費、減価償却費が大きな割合を占めています。

本年度の経常費用合計（経常行政コスト）は約55億円になりました。

【業務費用】

- ・ 人件費 … 職員給与、議員報酬、その他委員報酬、退職給付費用など。
- ・ 物件費等 … 委託料、備品・消耗品、施設などの維持補修にかかる経費や減価償却費、非常勤職員の賃金や報酬など。
- ・ その他の業務費用 … 地方債償還の利子や支払利息、徴収不能引当金繰入額など。

【移転費用】

- ・ 補助金等 … 特別会計や他団体への負担金、補助及び交付金。
- ・ 社会保障給付 … 生活保護費などの扶助費。
- ・ 他会計への繰出金 … 特別会計等への繰出金。

② 経常収益

行政サービスの提供に係る住民の支払いによる収入で、本年度は約12億円です。

経常費用合計から経常収益を差し引いた純経常行政コストは、約55億円です。

これは税金等で賄われるものです。

純経常行政コストから資産売却損、資産売却益等の臨時の損失や利益を差し引いた純行政コストは約55億円となりました。

行政コスト計算書の経年比較

【純行政コスト】

(単位：千円)

令和4年度	令和3年度	令和2年度
5,515,639	5,423,042	5,807,205

純資産変動計算書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

(単位：千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	
		固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	19,217,517	26,713,153	△ 7,495,637
純行政コスト(△)	△ 5,515,639		△ 5,515,639
財源	5,629,475		5,629,475
税収等	4,556,219		4,556,219
国県等補助金	1,073,255		1,073,255
本年度差額	113,836		113,836
固定資産等の変動(内部変動)		△ 465,648	465,648
有形固定資産等の増加		423,225	△ 423,225
有形固定資産等の減少		△ 1,022,089	1,022,089
貸付金・基金等の増加		706,052	△ 706,052
貸付金・基金等の減少		△ 572,836	572,836
資産評価差額	-	-	-
無償所管換等	△ 115,476	△ 115,476	
その他	92,265	-	92,265
本年度純資産変動額	90,624	△ 581,124	671,748
本年度末純資産残高	19,308,141	26,132,030	△ 6,823,889

純資産変動計算書の説明

①本年度差額

純行政コストは1年間の税金等や国県等補助金の財源で賄われるものです。
純行政コストが財源を上回った場合、純資産の減少と捉えることができます。

②本年度純資産変動額

- ・有形固定資産等の増加
資金収支計算書の「公共施設等整備費支出」から集計されます。
- ・有形固定資産等の減少
「減価償却費」＋「資産売却却損」＋「資産売却収入」から集計されます。
- ・貸付金・基金等の増加
「基金積立金支出」＋「投資及び出資金支出」＋「貸付金支出」から集計されます。
- ・貸付金・基金などの増加
「基金取崩収入」＋「貸付金元金回収収入」から集計されます。

尚、上記仕訳以外の非資金仕訳により固定資産形成額に差異が発生した場合、調整仕訳金額を計上することがあります。

- ・資産評価差額
有価証券、有形固定資産などの評価に伴う増加・減少が計上されます。
- ・資産評価差額
有形固定資産の異動のうち、資金を伴わない増加・減少が計上されます。
無償取得（寄付など）、調査判明増加・減少、所管換増加・減少など。

③本年度末純資産残高

前年度末純資産残高に本年度純資産変動額を加えた金額で、貸借対照表の純資産合計と一致します。

純資産の減少は、現役世代が将来世代にも利用可能であった資源を費消して便益を享受する一方で、将来世代にその分の負担が先送りされたことを意味します。

有形固定資産の減少が増加を上回っているのは、過去に資本投資した有形固定資産の減価償却による価値の減少分よりも、有形固定資産への投資が少なかったことを意味します。

このような増減により令和4年度末の純資産は約91百万円増加しました。

【様式第4号】

資金収支計算書

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

(単位：千円)

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	5,666,931
業務費用支出	3,694,575
人件費支出	1,592,595
物件費等支出	2,076,477
支払利息支出	13,286
その他の支出	12,218
移転費用支出	1,972,356
補助金等支出	1,327,648
社会保障給付支出	261,841
他会計への繰出支出	380,442
その他の支出	2,425
業務収入	6,605,770
税込等収入	4,556,451
国県等補助金収入	897,284
使用料及び手数料収入	657,017
その他の収入	495,018
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	938,839
【投資活動収支】	
投資活動支出	1,036,684
公共施設等整備費支出	423,225
基金積立金支出	533,226
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	80,233
その他の支出	-
投資活動収入	747,765
国県等補助金収入	175,971
基金取崩収入	497,898
貸付金元金回収収入	72,295
資産売却収入	1,600
その他の収入	-
投資活動収支	△ 288,920
【財務活動収支】	
財務活動支出	895,313
地方債償還支出	895,313
その他の支出	-
財務活動収入	291,911
地方債発行収入	291,911
その他の収入	-
財務活動収支	△ 603,402
本年度資金収支額	46,517
前年度末資金残高	559,947
本年度末資金残高	606,464
前年度末歳計外現金残高	19,592
本年度歳計外現金増減額	△ 252
本年度末歳計外現金残高	19,340
本年度末現金預金残高	625,804

資金収支計算書の説明

1年間の資金の増減をⅠ業務活動収支、Ⅱ投資活動収支、Ⅲ財務活動収支に区分し、3つの収支の財源がどのように調達され、収支の過不足が生じたのかを明らかにします。

① 業務活動収支

行政サービスを行う中で、毎年度継続的に生じる収入と支出を計上します。

- ・業務支出 … 人件費、物件費、補助費、扶助費などの支出。
- ・業務収入 … 税金等収入、（行政サービスに係る）国県等補助金、使用料及び手数料など。
- ・臨時支出 … 災害復旧事業費などの、経常的でない臨時の支出。
- ・臨時収入 … 災害復旧事業費に対する補助金収入など。

経常的な行政活動の収支である業務活動収支は約9億円の余剰となりました。

② 投資活動収支

公共施設等の整備、基金の積立・取崩しに関わる収入と支出を計上します。

- ・投資活動支出 … 公共施設等の整備、基金の積立、貸付などに要する支出。
- ・投資活動収入 … 国県等補助金、基金取崩、貸付金の元金回収、資産の売却などの収入。

資産形成や投資・貸付金などの収支である投資活動収支は約2.9億円の不足となりました。

③ 財務活動収支

資金の調達及び返済に関わる収入と支出を計上します。

- ・財務活動支出 … 地方債の元本償還などの支出。
- ・財務活動収入 … 地方債の発行などによる収入

公債の収支である財務活動収支は約5.0億円の不足となりましたが、これは地方債発行収入よりも地方費の償還の方が多かったことを示しています。

このような増減から本年度資金収支額は約0.5億円の余剰となり、前年度末資金残高約5.6億円を加え、本年度末資金残高は約6.1億円となりました。